

地域活性化に向けた医療・福祉施設等導入の可能性に関する研究(1)



国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 研究員 今野 彬徳

I はじめに

①生活空間の郊外化

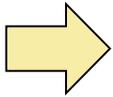
高度経済成長期の人口増加に伴い住空間が郊外市街地に拡大したに加え、モータリゼーションの進展により生活空間が郊外化した。

②市街地の衰退

中心市街地の衰退のみならず、高度経済成長期に供給された郊外住宅団地の中には建て替えや改修を含めた再生の必要性がある。

③今後の都市像

人口密度を維持するとともに、医療・福祉サービスを的確に供給し、高齢者はもとより子育て世帯等誰もが安心して暮らせるコンパクトシティ。(都市再生基本方針)



背景をうけて
本研究では…

病院の移転に着目し、**病院の人口集積効果**を検証。
それを基に病院の地域への導入が地域活性化に寄与するかどうかを考察。

II 研究の概要

(1) 研究対象

医療計画総覧を基に抽出された527件の病院移転のうち、調査に適した条件を満たす移転が10件であった。

病院の移転先地域を類型化。市内における相対的な世帯変化と、中心市街地であるか郊外地域であるかにより分類。

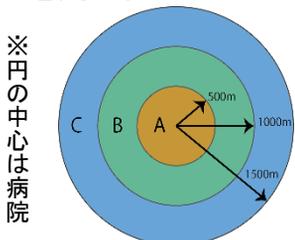
				527
移転 病院	中心 → 郊外	白地地域 を除く	病床数 100床以上	2000~2009年に移転
				4
	郊外 → 中心	白地地域 を除く	病床数 100床以上	2000~2009年に移転
				6
				95
				33
				28
				6



(2) 研究方法

①距離帯別の世帯数変化

下図の3エリアに毎に移転前後の世帯数変化を調査。



②病院の移転先・移転元地域の世帯数変化比較

移転先と移転元の両地域のAエリア(病院の周辺500m)の世帯数変化の様子を比較。

③病院周辺の世帯数変化の偏差値に基づく評価

世帯数変化の絶対数だけでは市内における相対的な位置が把握できないために実施。

④病院の人口集積効果に関するヒアリング調査

病院立地と人口増加との因果関係を探るために、市役所の担当課職員に調査を実施。

- ・国勢調査の500×500mメッシュデータを使用。
- ・全ての調査で**世帯増加数[世帯/km²・年]**を指標としている。
- ・5年以上の移転前期間、移転後期間における世帯増加数を用いて分析。

地域活性化に向けた医療・福祉施設等導入の可能性に関する研究(2)



国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 研究員 今野 彬徳

Ⅲ 研究結果

①距離帯別の世帯数変化

病院名	移転地域	平均/前	平均/後	Aエリア (~500m)					Bエリア (500~1000m)				
				移転前	移転後	前後	全体	評価	移転前	移転後	前後	全体	評価
(I)戸畑けんわ病院	増加中心	11.9	-1.3	95.8	54.9	-	+	鈍化	12.2	-7.7	-	-	減少
(II)八尾市立病院	減少中心	22.5	14.0	1.6	165.5	+	+	増加	9.3	25.8	+	+	増加
(III)済生会和歌山病院	減少中心	4.5	2.8	-13.2	8.7	+	+	増加	-23.4	2.6	+	-	緩和
(IV)浜田医療センター	減少中心	0.1	-0.1	-1.4	11.2	+	+	増加	7.9	-5.4	-	-	減少
(V)千歳市民病院	増加郊外	1.2	0.8	36.7	15.7	-	+	鈍化	32.7	34.0	+	+	増加
(VI)榊原記念病院	増加郊外	57.0	52.4	120.3	220.3	+	+	増加	28.0	65.9	+	+	増加
(VII)彦根市立病院	増加郊外	4.1	2.5	32.6	12.2	-	+	鈍化	22.2	8.9	-	+	鈍化
(VIII)新宮市医療センター	増加郊外	0.1	-0.3	18.1	16.2	-	+	鈍化	6.2	8.6	+	+	増加
(IX)苫小牧市立総合病院	減少郊外	2.9	-0.7	-8.7	18.7	+	+	増加	-2.6	9.0	+	+	増加
(X)草加市立病院	減少郊外	43.0	45.8	12.5	71.9	+	+	増加	66.1	43.8	-	-	減少

病院名	移転地域	平均/前	平均/後	Cエリア (1000~1500m)				
				移転前	移転後	前後	全体	評価
(I)戸畑けんわ病院	増加中心	11.9	-1.3	8.9	-6.1	-	-	減少
(II)八尾市立病院	減少中心	22.5	14.0	34.0	14.3	-	+	鈍化
(III)済生会和歌山病院	減少中心	4.5	2.8	-18.5	-5.5	+	-	緩和
(IV)浜田医療センター	減少中心	0.1	-0.1	-0.4	-0.7	-	-	減少
(V)千歳市民病院	増加郊外	1.2	0.8	6.2	21.6	+	+	増加
(VI)榊原記念病院	増加郊外	57.0	52.4	57.8	44.3	-	-	減少
(VII)彦根市立病院	増加郊外	4.1	2.5	25.3	10.4	-	+	鈍化
(VIII)新宮市医療センター	増加郊外	0.1	-0.3	6.0	-1.0	-	-	減少
(IX)苫小牧市立総合病院	減少郊外	2.9	-0.7	0.0	7.4	+	+	増加
(X)草加市立病院	減少郊外	43.0	45.8	38.9	43.9	+	-	緩和



世帯減少地域に移転した場合、全ての事例でAエリアが増加。また、Bエリア、Cエリアと比較すると、Aエリアの世帯増加数が最大であり、病院の新規立地が世帯数に影響を及ぼしたことが推測される。

②移転先・移転元地域の世帯数変化比較

病院名	移転型	平均/前	平均/後	移転先・Aエリア (~500m)					移転元・Aエリア (~500m)				
				移転前	移転後	前後	全体	評価	移転前	移転後	前後	全体	評価
(I)戸畑けんわ病院	増加中心	11.9	-1.3	95.8	54.9	-	+	鈍化	12.2	-5.8	-	-	減少
(II)八尾市立病院	減少中心	22.5	14.0	1.6	165.5	+	+	増加	89.9	5.9	-	-	減少
(III)済生会和歌山病院	減少中心	4.5	2.8	-13.2	8.7	+	+	増加	43.3	2.1	-	-	減少
(IV)浜田医療センター	減少中心	0.1	-0.1	-1.4	11.2	+	+	増加	25.6	-4.6	-	-	減少
(V)千歳市民病院	増加郊外	1.2	0.8	36.7	15.7	-	+	鈍化	40.5	12.2	-	+	鈍化
(VI)榊原記念病院	増加郊外	57.0	52.4	120.3	220.3	+	+	増加	49.4	59.5	+	+	増加
(VII)彦根市立病院	増加郊外	4.1	2.5	32.6	12.2	-	+	鈍化	-14.0	-9.0	-	-	減少
(VIII)新宮市医療センター	増加郊外	0.1	-0.3	18.1	16.2	+	+	鈍化	-11.0	-25.4	-	-	減少
(IX)苫小牧市立総合病院	減少郊外	2.9	-0.7	-8.7	18.7	+	+	増加	-37.3	6.6	+	+	増加
(X)草加市立病院	減少郊外	43.0	45.8	12.5	71.9	+	+	増加	17.1	44.5	+	-	緩和

移転先では増加もしくは鈍化しかみられないものの、移転元では減少が多くみられる。

③偏差値に基づく調査

	Aエリア (~500m)		
	移転前	移転後	評価
(I)	64.8	67.1	増加
(II)	46.8	81.9	増加
(III)	44.8	52.6	増加
(IV)	47.6	83.1	増加
(V)	57.5	56.2	鈍化
(VI)	55.9	74.7	増加
(VII)	56.0	53.4	鈍化
(VIII)	58.4	73.8	増加
(IX)	44.1	55.1	増加
(X)	46.7	55.6	増加

IとIIIで絶対数での評価とは違い増加であった。

④ヒアリング調査

ヒアリング結果より、病院と人口集積の関係として次の理由が推測された。

直接的理由

・病院利用の利便性向上。・安心化、安全性や清潔感を得られる。

間接的理由

・道路整備等による住環境の向上。・バス路線の新設等による交通利便性の向上。・住民活動の機運が高まり、地域に活気生まれる。

Ⅳ おわりに

地域への病院の導入が人口集積につながる可能性が明らかになった。